

小学校学習指導要領解説 学習評価Q&A 外国語活動



教
学
一
如

教えることは学ぶことである
学び続ける教職員に



鹿児島県総合教育センター

学習指導要領解説学習評価Q & Aについて

平成29年3月に公示された学習指導要領の趣旨を踏まえた学習評価について、基本的な考え方や小・中学校の教科等別に評価規準の作成のポイントを先生方に分かりやすく解説するためQ & A形式でまとめています。

この学習評価Q & Aは、改訂された学習指導要領に基づき、どんなところが変わったのかをまとめています。



1 大事なポイントを解説

学習指導要領解説を踏まえ、国立教育政策研究所の「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」に基づいて作成しているので、各教科等の学習評価を行う上で大事なポイントが分かります。

2 Q&A

教科の目標や学年の目標に照らし合わせて評価規準の作成の手順等を図式化し、留意点などワンポイントアドバイスを取り入れるなど、分かりやすく読みやすい内容で解説しています。

評Q2 技術・家庭(家庭分野)の評価の観点は、どのように変わりましたか。

評A2 「生活や技術への関心・意欲・態度」、「生活や工作・創造する力」、「生活の技能」、「生活や技術についての知識・理解」の観点から、「知識・技能」、「態度・意欲・習慣」、「生活や技術に関する実践力」の3観点に変わりました。この観点は、指導と評価の一体化を実現するために、教科の目標及び内容を踏まえて整理されています。

新学習指導要領における教科等の目標と評価の観点の関連等についてQ & A形式で分かりやすく解説しています。

コンパクトに「答え (Answer)」に係る補足説明や参考資料などがまとめられているので、「答え」の理由や根拠などが分かります。



3 簡単アプローチ

「指導と評価の一体化」を図り、児童生徒の資質・能力の確実な育成に資するために、日々の授業改善や評価の改善に生かしてください。各教科ごとに必要な部分だけでも印刷・ダウンロードできます。

目 次

評Q1	学習評価の基本的な考え方とはどのようなものですか。	1
評Q2	外国語科の評価の観点は、どのように変わりましたか。	4
評Q3	外国語科の評価規準は、どのように作成すればよいですか。	6
評Q4	評価をする際、具体的にどのようなことに気を付ければよいですか。	9

外国語活動(共通)

評 Q1 学習評価の基本的な考え方とはどのようなものですか。

評 A1

学習指導要領の目標及び内容が、資質・能力の三つの柱で再整理されたことを踏まえ、各教科の評価の観点が、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に取り組む態度」の3観点到に整理され、それに伴い観点別学習状況の評価の考え方も変わりました。

教師が児童生徒の学習状況を的確に捉え、授業改善を図るとともに、児童生徒が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにするために「学習評価の在り方」が極めて重要です。

1 学習評価の意義

(1) 学習評価の充実

平成 29 年改訂小中学校学習指導要領総則においては、児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善と学習の過程や成果を評価する評価の改善を両輪として行っていくことの必要性が明示されました。

(2) カリキュラム・マネジメントの一環としての指導と評価

「学習評価」は「学習指導」とともに、学校の教育活動の根幹であり、教育課程に基づいて組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図る「カリキュラム・マネジメント」の中核的な役割を担っています。

(3) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善と評価

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を通して各教科等における資質・能力を確実に育成する上で、学習評価は重要な役割を担っています。

(4) 学習評価の改善の基本的な方向性

(1)～(3)の学習評価の意義を踏まえ、学習指導要領改訂の趣旨を実現するためには、学習評価の在り方が極めて重要です。学習評価を真に意味のあるものとするために指導と評価の一体化を実現することがますます求められています。

【ポイント】

- 児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと
- 教師の指導改善につながるものにしていくこと
- これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと

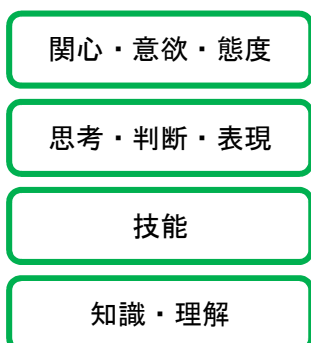


「指導と評価の一体化」を図るためには、児童生徒の学びを振り返り、学習や指導の改善に生かしていくというPDCAサイクルが大切です。

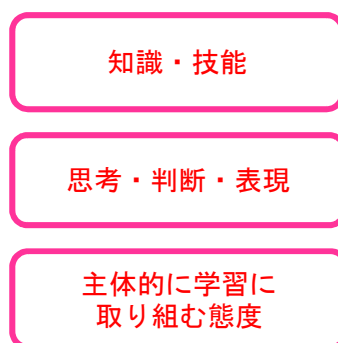
2 評価の観点の整理

育成を目指す資質・能力の三つの柱に基づいた目標や内容の再整理を踏まえ、観点別学習状況の評価の観点については、小・中学校の各教科等を通じて「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点到に整理されました。

[平成 20 年改訂]



[平成 29 年改訂]

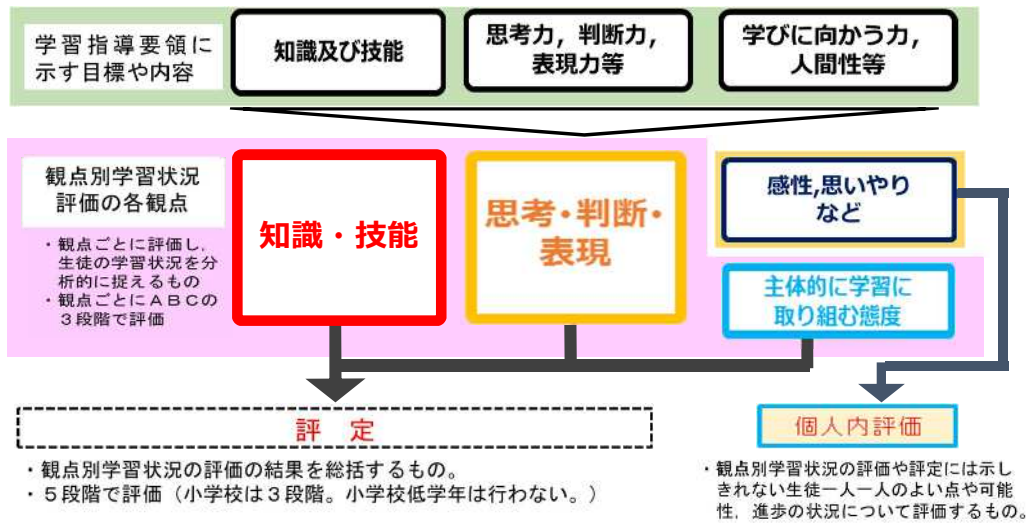


【参考】

生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。(学校教育法第 30 条第 2 項)

3 各教科における評価の基本構造

2で示した評価の観点の整理も踏まえて各教科における評価の基本構造が以下のように示されています。



（『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」p.8を基に作成，以下「学習評価参考資料」と記す。）

4 各教科における観点別学習状況の評価の考え方



上記の「各教科における評価の基本構造」を踏まえた3観点の評価それぞれについての考え方は次のとおりです。なお、この考え方は、外国語活動(小学校)、総合的な学習(探究)の時間、特別活動においても同様です。

「知識・技能」

各教科等の学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況について評価します。それらを既有的の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、概念等として理解したり、技能を習得したりしているかについて評価します。

「思考・判断・表現」

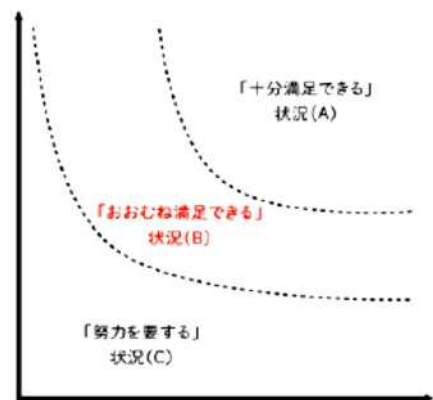
各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかを評価します。

「主体的に学習に取り組む態度」

「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、「①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面」と、「②①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面」という二つの側面から評価することが求められます。

これら①②の姿は実際の教科等の学びの中では別々ではなく相互に関わり合いながら立ち現れるものと考えられます。例えば、自らの学習を全く調整しようせず粘り強く取り組み続ける姿や、粘り強さが全くない中で自らの学習を調整する姿は一般的ではありません。

②自らの学習を調整しようとする側面



①粘り強い取組を行おうとする側面

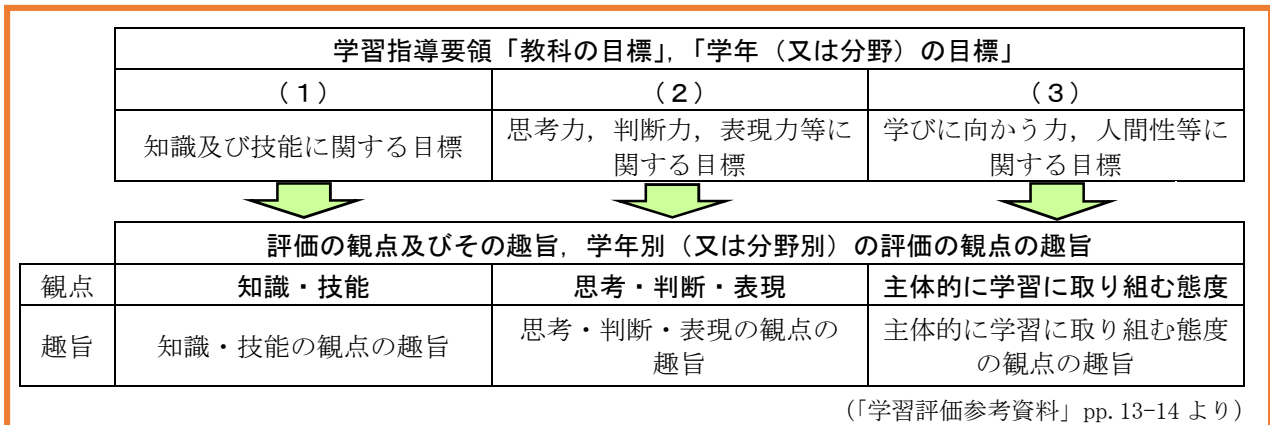
（「学習評価参考資料」p.10を基に作成）

5 各教科における評価規準の作成について

(1) 目標と観点の趣旨との対応関係について

評価規準の作成に当たっては、各学校の実態に応じて目標に準拠した評価を行うために、「評価の観点及びその趣旨」が各教科等の目標を踏まえて作成されていること、また同様に、「学年別（又は分野別）の評価の観点の趣旨」が学年（又は分野）の目標を踏まえて作成されていることを確認することが必要です。

なお、「主体的に学習に取り組む態度」の観点は、教科等及び学年（又は分野）の目標の（3）に対応するものですが、観点別学習状況の評価を通じて見取ることができる部分をその内容として整理し、示していることを確認することが必要です。（詳細は、評Q2参照）



指導と評価の計画を作成し、評価規準に基づいた「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点の観点別評価を実施することで、児童生徒の姿が、教科の目標や学年の目標に近付いていくことになります。

(2) 「内容のまとめりごとの評価規準」とは



「内容のまとめり」とは、学習指導要領に示す各教科等の「第2 各学年の目標及び内容」の「2 内容」の項目等をそのまとめりごとに細分化したり整理したりしたものです。基本的には、学習指導要領に示す各教科等の「第2 各学年（又は分野）の目標及び内容」の「2 内容」において、「内容のまとめり」ごとに育成を目指す資質・能力が示されています。このため、「2 内容」の記載はそのまま学習指導の目標となり得るものとなっています。（詳細は、評Q2参照）

(3) 「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の基本的な手順

各教科における、「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の基本的な手順は以下のとおりです。

学習指導要領に示された教科及び学年（又は分野）の目標を踏まえて、「評価の観点及びその趣旨」が作成されていることを理解した上で、

- ① 各教科における「内容のまとめり」と「評価の観点」との関係を確認する。
- ② 【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する。

評 Q2 外国語活動の評価の観点とは、どのように変わりましたか。

評 A2 「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」、「外国語への慣れ親しみ」、「言語や文化に関する気付き」の3観点から、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に変わりました。この3観点は、指導と評価の一体化を実現するために、外国語活動の目標及び内容を踏まえて整理されています。

1 新学習指導要領における目標と評価の観点の関連

(1) 外国語活動の目標と評価の観点及びその趣旨

目標の(1)～(3)と、それぞれ評価の観点及びその趣旨が合うようになっています。

外国科の目標		
(1)	(2)	(3)
外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。	身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。	外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。



外国語活動 評価の観点及びその趣旨		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 外国語を通して、言語や文化について<u>体験的に理解</u>を深めている。 日本語と外国語の音声の違い等に気付いている。 外国語の音声や基本的な表現に<u>慣れ親しんでいる</u>。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを<u>伝え合っている</u>。 	<ul style="list-style-type: none"> 外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、<u>相手に配慮</u>しながら<u>主体的に外国語</u>を用いて、コミュニケーションを図ろうとしている。

(文部科学省「各教科等・各学年等の評価の観点及びその趣旨」より 下線、太字は筆者による)

(2) 小学校外国語活動の「内容のまとめり」

三つの領域別の目標の記述は、資質・能力の三つの柱を総合的に育成する観点から、各々を三つの柱に分けずに一文ずつの能力記述文で示しており、それらの目標がそれぞれの評価の観点に合うようになっています。

〈領域別の目標〉

聞くこと	ア ゆっくりはっきりと話された際に、自分のことや身の回りの物を表す <u>簡単な語句を聞き取る</u> ようにする。
	イ ゆっくりはっきりと話された際に、身近で簡単な事柄に関する <u>基本的な表現の意味が分かる</u> ようにする。
	ウ 文字の読み方が発音されるのを聞いた際に、どの文字であるかが分かるようにする。

話すこと 〔やり取り〕	<p>ア 基本的な表現を用いて<u>挨拶、感謝、簡単な指示をしたり、それらに応じたりする</u>ようにする。</p> <p>イ 自分ことや身の回りの物について、<u>動作を交えながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合う</u>ようにする。</p> <p>ウ サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて<u>質問をしたり質問に答えたりする</u>ようにする。</p>
話すこと 〔発表〕	<p>ア 身の回りの物について、人前で実物などを見せながら、<u>簡単な語句や基本的な表現を用いて話す</u>ようにする。</p> <p>イ 自分ことについて、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。</p> <p>ウ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、人前で実物などを見せながら、<u>自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話す</u>ようにする。</p>

(下線、太字は筆者による。)

〈評価の観点及びその趣旨〉

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	<p>自分ことや身の回りの物を表す簡単な語句を聞き取ったり、身近で簡単な事柄に関する基本的な表現を聞いたりすることに慣れ親しんでいる。また、文字の読み方が発音されるのを聞くことに慣れ親しんでいる。</p>	<p>コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、自分ことや身の回りの物を表す簡単な語句を聞き取ったり、身近で簡単な事柄に関する基本的な表現の意味が分かったりしている。また、文字の読み方が発音されるのを聞いて、どの文字であるかが分かっている。</p>	<p>言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語で話されることを聞こうとしている。</p>
話すこと 〔やり取り〕	<p>挨拶、感謝、簡単な指示をしたりそれらに応じたりすることに慣れ親しんでいる。また、自分ことや身の回りの物について、自分の考えや気持ちなどを伝え合ったり、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、質問をしたり質問に答えたりすることに慣れ親しんでいる。</p>	<p>コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、挨拶、感謝、簡単な指示をしたり、それらに応じたりしている。また、自分ことや身の回りの物について、自分の考えや気持ちなどを伝え合ったり、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について質問をしたり質問に答えたりしている。</p>	<p>言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いて伝え合おうとしている。</p>
話すこと 〔発表〕	<p>身の回りの物や自分ことについてや、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを話すことに慣れ親しんでいる。</p>	<p>コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身の回りの物や自分ことについてや、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを話している。</p>	<p>言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いて話そうとしている。</p>

2 「内容のまとめ」と「評価の観点の関連」

小学校外国語科における「内容のまとめ」は、小学校学習指導要領 第4章 外国語活動 第2 各言語の目標及び内容等 英語 1 目標に示されている「三つの領域」のことです。そのため、外国語活動では、この内容のまとめごと、さらに観点別で評価規準を作成する必要があります。

評 Q3 外国語活動の評価規準は、どのように作成すればよいですか。

評 A3 外国語活動の目標及び「三つの領域別の目標」に基づき、「内容のまとめり(三つの領域)ごとの評価規準」を作成します。

1 評価規準作成の流れ

- 1 「内容のまとめり」と「評価の観点」との関係を確認する。(評Q2)
- 2 【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する。
- 3 評価規準を作成する。

評価規準の計画段階では、記録に残す場面をいつ、どの単元に設定するかを決めます。その上で、全ての項目について記録に残す評価を1年間かけて行います。



学年ごとの目標及び評価規準の設定

単元の目標設定

単元の評価規準を設定

単元の評価規準の学習活動に即した具体化の検討

各領域について、具体的な児童の姿をイメージして指導することが大切です。



2 「学年ごとの目標」及び「学年ごとの評価規準」の設定

- 「外国語活動の目標」及び「三つの領域別の目標」に基づき、各学校における児童の発達の段階と実情を踏まえ、「学年ごとの目標」「三つの領域別の『学年ごとの目標』」を適切に定める。
- 三つの領域別の「学年ごとの目標」は、「三つの領域別の目標」を踏まえると、各々を資質・能力の三つの柱に分けずに、一文ずつの能力記述文で示すことが基本的な形となる。
- 三つの領域別の「学年ごとの目標」に対応する「学年ごとの評価規準」は、「内容のまとめり(三つの領域)ごとの評価規準」を踏まえて、3観点で記述する必要がある。三つの領域別の「学年ごとの目標」から「学年ごとの評価規準」を作成する手順は、「内容のまとめり(三つの領域)ごとの評価規準」の場合と基本的に同じである。

3 「単元ごとの目標」及び「単元ごとの評価規準」の設定

- 「単元ごとの目標」は、三つの領域別の「学年ごとの目標」を踏まえて設定する。
- 「単元ごとの評価規準」は、「内容のまとめり(三つの領域)ごとの評価規準」「学年ごとの評価規準」と同様に、「単元ごとの目標」を踏まえて設定する。
- 言語材料や当該単元を中心とする言語活動において設定するコミュニケーションを行う目的や場面、状況、取り扱う話題などに即して設定する。
- 具体的には、「内容のまとめり(三つの領域)ごとの評価規準(例)」(評Q2)を基に、以下の4 評価規準作成のポイント等を参考に作成する。
- これらはいくまで例示であり、より重点化したり、より端的に記載したりすることも考えられる。目標に照らして観点別の評価を行う上で必要な要素が盛り込まれていれば、語順や記載の仕方等は必ずしもこの例示の通りである必要はない。

4 評価規準作成のポイント（「内容のまとめ（三つの領域）ごとの評価規準）」

(1) 「知識・技能」の評価規準

〈知識〉

- ・「知識」については、小学校学習指導要領「2 内容〔第3学年及び第4学年〕」の〔知識及び技能〕における「(1) 英語の特徴等に関する事項」に記されていることを指しており、それらの事項を身に付けている状況の評価する。

〈技能〉

- ・「聞くこと」は、自分のことや身の回りの物を表す簡単な語句を聞き取ったり、身近で簡単な事柄に関する基本的な表現を聞いたりすることに慣れ親しんでいる状況の評価する。また、文字の読み方が発音されるのを聞くことに慣れ親しんでいる状況の評価する。
- ・「話すこと〔やり取り〕」は、挨拶、感謝、簡単な指示をしたり、それらに応じたりすることに慣れ親しんでいる状況の評価する。また、自分のことや身の回りの物について、自分の考えや気持ちなどを伝え合ったり、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、質問をしたり質問に答えたりすることに慣れ親しんでいる状況の評価する。
- ・「話すこと〔発表〕」は、身の回りの物や自分のことについてや、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを話すことに慣れ親しんでいる状況の評価する。

- 児童は、外国語活動で初めて外国語に触れます。よって、「外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ」ことは、外国語活動の目標に示している「言語や文化について体験的に理解を深め」ることや「日本語と外国語との違い等への気付き」と一体的なものです。



(2) 「思考・判断・表現」の評価規準

- ・「聞くこと」は、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、自分のことや身の回りの物を表す簡単な語句を聞き取ったり、身近で簡単な事柄に関する基本的な表現の意味が分かったりしている状況の評価する。また、文字の読み方が発音されるのを聞いて、どの文字であるかが分かっている状況の評価する。
- ・「話すこと〔やり取り〕」は、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、挨拶、感謝、簡単な指示をしたり、それらに応じたりしている状況の評価する。また、自分のことや身の回りの物について、自分の考えや気持ちなどを伝え合ったり、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、質問をしたり質問に答えたりしている状況の評価する。
- ・「話すこと〔発表〕」は、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身の回りの物や自分のことについてや、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを話している状況の評価する。



- 外国語活動では、取り扱う語彙や表現が限られています。よって、ここでいう「コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて」とは、考えや気持ちなどを相手に理解してもらったり、したりするために、ゆっくり話したり、繰り返したり、また動作を交えたりするなどの工夫を行うことを指しています。

(3) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準

- ・「主体的に学習に取り組む態度」は、外国語の背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている状況の評価する。
- ・「聞くこと」は、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、自分のことや身の回りの物を表す簡単な語句を聞き取ったり、身近で簡単な事柄に関する基本的な表現の意味が分かったりしようとしている状況の評価する。また、文字の読み方が発音されるのを聞いて、どの文字であるかを分かろうとしている状況の評価する。
- ・「話すこと [やり取り]」は、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、挨拶、感謝、簡単な指示をしたり、それらに応じたりしようとしている状況の評価する。また、自分のことや身の回りの物について、自分の考えや気持ちなどを伝え合ったり、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、質問をしたり質問に答えたりしようとしている状況の評価する。
- ・「話すこと [発表]」は、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身の回りの物や自分のことについてや、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを話そうとしている状況の評価する。
- ・上記の側面と併せて、言語活動への取組に関して見通しを立てたり振り返ったりして自らの学習を自覚的に捉えている状況についても、特定の領域・単元だけではなく、年間を通じて評価する。

○ 外国語活動では、取り扱う語彙や表現が限られています。よって、ここでいう「コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて」とは、考えや気持ちなどを相手に理解してもらうために、ゆっくり話したり、繰り返したり、また動作を交えたりするなどの工夫を行います。



(4) 単元の目標及び評価規準の設定 (例)

○ 目的、状況、場面を明確に設定し、実際に英語を使用して、互いの考えや気持ちを伝え合えるように目標を設定します。

ア 単元の目標

学級みんなに自分のことを知ってもらうために、好きなものや苦手なものについて、はっきりと伝えるように工夫して伝え合っている。

イ 評価規準の設定

※ 目的・場面・状況、言語材料、事柄・話題、内容

観 点	評 価 規 準	留 意 点
知識・技能 〈知識〉 〈技能〉	○ <u>身の回りの物を表す語や、I like ～.、Do you like～?の表現について慣れ親しんでいる。</u> ○ <u>自分や相手のことについて、身の回りの物を表す語や、I like～.、Do you like～?を用いて、考えや気持ちを伝え合ったり、質問をしたり質問に答えたりすることに慣れ親しんでいる。</u>	慣れ親しんだ外国語を用いて、事柄や話題について、言語活動を行っているか。
思考・判断・表現	○ <u>友達のことを理解したり自分のことを伝えたりするために、自分や相手のことについて、考えや気持ちなどを伝え合ったり、質問をしたり質問に答えたりしている。</u>	目的・場面・状況に応じて、適切に表現しているか。

主体的に学習に取り組む態度	○ <u>友達のことを理解したり自分のことを伝えたりするために、自分や相手のことについて、考えや気持ちなどを伝え合ったり、質問をしたり質問に答えたりしようとしている。</u>	思考・判断・表現と一体的に評価する。
---------------	---	--------------------

〈作成のポイント〉

- 計画段階では、記録に残す評価（通知表や指導要録に記録する総括的な評価）をいつ、どの単元に設定するか見通しを立てます。その上で、各項目について記録に残す評価を年間を通して行います。
- 記録に残す評価を行う場面を精選するためには、単元のどの場面で、どの内容について、どのような方法で評価を行うか考えておく必要があります。
- 記録に残す評価は、形成的な評価を行いながら必要な指導を繰り返すなど十分な指導を行ってから行います。
- 早い段階で目標を達成している児童についてはその時点で評価を行います。
- 言語活動への取組に関して見通しを立てたり振り返ったりして、自らの学習を自覚的に捉えている状況については、特定の領域・単元だけではなく年間を通じて評価します。



評 Q4 評価をする際、具体的にどのようなことに気を付ければよいですか。

評 A4 外国語活動の記録については、評価の観点を記入した上で、それらの観点到照らして、児童の学習状況に顕著な事項がある場合にその特徴を記入する等、児童にどのような力が身に付いたかを文章で端的に記述することになっています。

指導と評価の一体化に向けて（指導と評価の計画）

学習評価は、児童にとっては学習改善の、教師にとっては指導改善のために行うものです。指導と評価の計画を立て、どの学習場面でどの評価規準をどのような方法で評価するのかを明確にし、指導と評価の一体化を図る必要があります。事例を参考に、各学校で指導と評価の一体化に向けて取り組みましょう。

【事例】

学習評価に関する事例

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料
第3編 第2章 学習評価に関する事例について

【国立教育政策研究所教育課程研究センター】

